

令和6年産 稲作情報 第8号

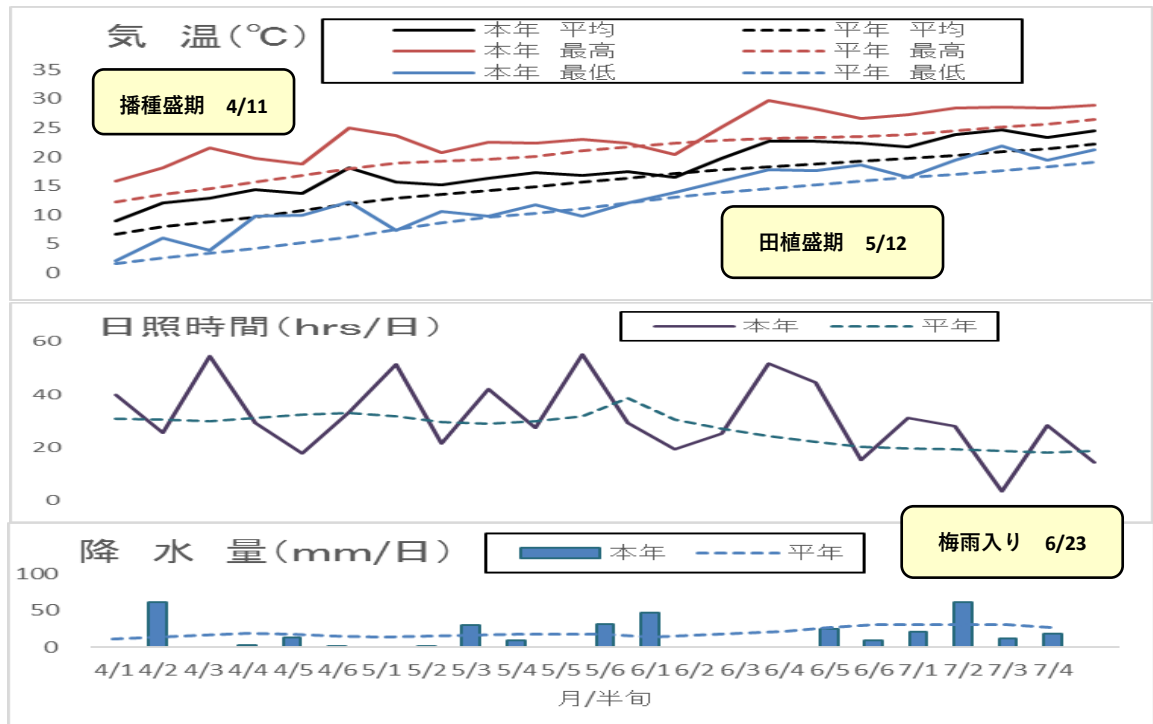
令和6年7月26日



～早生品種や5月上旬植えの水稻で 出穂始まる～

～斑点米カメムシ類に対する注意報が発令 適期防除の徹底を～

1 令和6年の気象経過（古川アメダス）と東北地方の1か月予報



◆7月18日発表 東北地方の1か月予報(7月20日～8月19日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率80%、平年並み若しくは低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。
- ・日照時間は、東北太平洋側では、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 07/20～08/19	10 10 80
		1週目 07/20～07/26	10 10 80
		2週目 07/27～08/02	20 30 50
		3～4週目 08/03～08/16	20 30 50
降水量	東北地方	向こう1か月 07/20～08/19	20 40 40
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 07/20～08/19	40 40 20
	東北太平洋側	向こう1か月 07/20～08/19	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況（令和6年度 宮城県米づくり推進本部情報臨時情報 第1号より一部抜粋）

（1）作況試験（古川農業試験場，7月10日現在）

- ・5月10日植えの「ひとめぼれ」の草丈は67cm程度で平年よりやや長い。茎数は683本/m²で平年よりやや多い。
- ・葉色（GM値）は35.6で，平年より低く，前回調査時より低下している。
- ・葉数は10.7枚で平年より0.3枚多く，生育ステージは平年よりやや進んでいると思われる。
- ・**幼穂長は1.83mmで，平年並みの7月7日頃に幼穂形成期に達したとみられ，出穂期は7月31日頃と予想される。**
- ・「だて正夢」及び「金のいぶき」も幼穂形成期に達している。

品種名	移植日	草丈 (cm)	m ² 茎数 (本)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)	幼穂形成期
ひとめぼれ	5月10日	67.1 (109%)	683 (110)	10.7 (0.3)	35.6 (-2.9)	1.83 (-0.16)	7月7日 (±0日)
	5月20日	62.7 (104%)	590 (91)	10.2 (0.0)	42.7 (2.0)	0.51 (0.19)	未
	5月31日	56.7 (-)	623 (-)	9.6 (-)	41.6 (-)	0.11 (-)	未
だて正夢	5月10日	72.2 (106%)	557 (108)	11.0 (0.5)	38.9 (-1.5)	1.03 (-0.07)	7月10日 (±0日)
金のいぶき	5月10日	67.3 (96%)	655 (105)	11.1 (-0.4)	33.9 (-2.4)	0.87 (-0.06)	7月11日 (±0日)

注1) 各項目のかっこ内は平年差・比を表す。ただし、金のいぶきは前年差・比。

5月31日移植ひとめぼれは本年新規のため平年値・前年値無し。

2) 平年差・比は直近5か年（令和元年～5年）の平均値より算出。

（2）【参考】出穂状況の観察調査（7月24日現在）

- ・JAいしのまき管内：出穂始～出穂始期（早生品種若しくは5月上旬植えの中生品種が出穂を始めているものと推測される。）
- ・JAみやぎ登米管内：出穂始（同上）
- ・JA新みやぎ管内（涌谷町，美里町）：出穂始（同上）

（3）出穂の見込み

- ・今後の天候が平年並みであると仮定すると，7月25日現在で，「ひとめぼれ」等の中生品種の**出穂期は7月30日頃と予測される。**
- ・ただし，今後の天候によって，生育ステージが予測値から変動することがあるので，ほ場で幼穂長を確認し，生育ステージを把握することが重要である。

3 今後の管理

（1）出穂後の水管理

- ・水不足等の影響も考えられることから，出穂後の水管理は「飽水管理（ほうすいかんり）」を基本とする。飽水管理については，前号（稲作情報第7号）を参照されたい。

(2) 病虫害防除（宮城県病虫害防除所）

① いもち病

- ・ B L A S T A Mによる感染好適条件の推定結果では，7月中旬以降，感染好適条件が県内の各地で出現している（●が感染好適条件）。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/9	—	●	●	●	○	○	○	○	○	—	○	●	○	○	—	—	—	—
7/10	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
7/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
7/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/15	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7/16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15～25℃, 前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	
?	判定不能	

- ・ 防除所の「発生予報第6号」によれば，葉いもちは巡回調査では確認されず，「発生量」は「やや少ない」と予報されている。
- ・ いもち病の予防粒剤の効果が低下してくる時期である。ほ場をよく観察し，葉いもちの発生が確認された場合は，直ちに茎葉散布剤で防除する。

② 紋枯病

- ・ 防除所が実施した巡回調査によれば，発生地点率は平年並み，発病株率は平年よりやや高く，発生量は「平年並み」と予想される。
- ・ 前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため，紋枯病が前年に発生したほ場では，要防除水準を参考に防除を検討する。「要防除水準」については，病虫害防除所のホームページを参照されたい。

③ 斑点米カメムシ対策（令和6年度 宮城県米づくり推進本部臨時情報 第2号より一部抜粋）

- ・ 定点調査の結果，アカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第2半旬であり，平年（7月第5半旬）より早かった。また，第2世代成虫発生盛期は平年（8月第4半旬）より早い8月第2半旬と予測される。

- ・ 7月中旬の巡回調査によれば、周辺草地及び本田におけるアカスジカスミカメ成虫及びホソハリカメムシ成幼虫の「すくいとり虫数」は平年よりかなり多かった。そのため、7月19日付で「注意報第1号」を発表し、適期防除を呼び掛けている。



【アカスジカスミカメ】



【ホソハリカメムシ】



【クモヘリカメムシ】

(提供：いずれも宮城県病害虫防除所 7月19日発行 令和6年度発生予察情報 注意報 第1号より)

- ・ 水田における薬剤防除は、「穂揃期」と「1回目防除から7～10日後」の2回が基本である。ただし、イヌホタルイが多発しているほ場では、1回目の薬剤散布を「出穂始～穂揃期」に行うことで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できる。
 - ・ すでにアカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期を迎えていることから、今後、水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米被害を助長するため、原則行わない。やむを得ず草刈りを行う場合は、草刈り後ただちに水田への薬剤防除を実施する。
- ◎クモヘリカメムシは水田に越冬世代成虫が浸入し、その後1世代を経過する。**クモヘリカメムシの発生地域（県南部及び仙台湾沿岸地帯）**で「つや姫」等の晩生品種を作付けする場合は被害リスクが高くなる可能性があるため、適期防除を実施する。

◆アカスジカスミカメ成虫の発生活動と防除体系（宮城県病害虫防除所ホームページより）

